

オピニオン opinion

風景印のお便り特別感

永野 意見子 68 主婦(埼玉県草加市)

いい年をして、同年代のアーティストを追いかけて全国のコンサートに出かけています。家族からはあきれられているが、私にとっては元気の源になっています。今回、愛媛県武尊館でコンサートがあったが、私は参加できませんでしたが、

残念ながら知名度は低く、ほとんどの人が知らないが、こんな素敵な風景印で手紙をもらったらうれしき倍増です。出かけた先で風景印を置いてある郵便局を探すのも、楽しいものです。旅先からお便りが届くと、心がほっこり。いつもの手紙より特別うれしいな。風光明媚な高知を、訪ねてみたいになりました。

プロパガンダ

藤田 絹代 81 (いの町枝川)

8月24日本欄に載せていただいた「空腹の毎日」で、文中の替え歌のメロディがずっと気になっていた。思い切って傳孝のMさん(91)に教を請った。「ちと歌ってらん」と言われ、「三十条のじきずル持って町(橋)に立つ、おんちゃんいもきくれじやでもかまんきに」と歌った。Mさんは出だしで早くも「分かった そりや三橋の歌や。鎌倉幕府の頃鎌倉軍が回にわたり攻めてきたが神風が吹き、船は沈没し日本を侵略できなかつた」とは教わつたらう。それを第2次世界大戦の折に「日本は神風が吹く、負けることはない」と戦意高揚のために国民に教わされた

このころ、私は敗戦の秋、5歳になった。幼年期にこの歌に接して記憶していたのだ。そういえば町内の集まりがわが家であり、対話や軍歌など歌っていたことが、2歳の間取りなるとともに思い出された。各町内会このような会がもたれていたのか、豊後が島回りをしていたのも覚えている。今ロシアでは「正義の戦い」「もともとはロシアのもの」「ウクライナでロシア人が差別を受けている」等のプロパガンダの横行で、戦争協力が国民の中にも浸透している。かつての日本国民がそうであったように、けれども敗戦の思いの人々がいることも忘れてはいけない。今も、昔も。

スポーツ、読書、食飲、芸術の秋。新たなチャレンジ、こだわりのリサーチなどの投稿もお待ちしています。



矢野 かよ子 75 (三原村宮ノ川)

茶の心

奇跡

松本 章江 60 会社員(高知市中宝永町)

あらためて「いつ何がおきるのかわからない。そう思われる出来事が、ありました。いつもと変わらない夕暮れ時。散歩に出かけたあの日は新緑に囲まれ、心地よい風に吹かれていました。しかし突然、景色が一変しました。一緒にいた愛犬もはるかに大きい犬が、愛犬と私たちに襲いかかってくるのです。愛犬はけがを負ったまま、怖さのあまり逃走してしまいました。「どこかにいて」と必死の思いで捜していたところ、又

の男子学生の方が「どうしたんですか」と声をかけてくれました。状況を説明したところ男子学生は「救急車を呼んだ方がいい。犬は僕たちが押します」と言ってくれ、私が救急搬送されるまで愛犬と一緒に捜してくれました。愛犬は幸いにも通りがかりの方が救助してくれ、無事発足することができました。事故現場から救急離れた場所でしたので、ほんの少しも物事が狂っていただけで、思えばどうも

す。そして何より、コロナ禍で人の関わりが減っていた時。見知らぬ方たちの心温まる行動が、心に深くしみました。連絡先も聞けないうままだったので、お礼も報告もできていません。この出来事に遭遇し、関わってくださった方々に、この紙面をお借りして感謝の気持ちが届いてくれると幸いです。偶然が重なった奇跡を、生涯忘れません。本当に、ありがとうございました。

文章を書くということ 小笠原 隆政 67 学習塾経営(高知市棧橋通)

「人はなぜ文章を書くのだろうか」とか最近考えた。自分が感じることを思いのたけを文章に交えて、この声ひらは欄に投稿し掲載されることで、多くの知人や友人にまだ元気でやっているから、という言葉を、知らせる役目も果たしてもらっている。小学生の頃、国語の試験で「次のお話を読んで感じたことを書きなさい」という問題があった。どんな内容だったか覚えていないが、私は問題の指示通り「あんまりおもしろくない」と感嘆を書き、担任の先生に叱られた記憶がある。でもその問題で丸ももらっている長達は、自分とは全く違う答えだったので驚いて「ほんまにこ

んなに感じたがな」とか、いたら「塾でどういふうに答えなさい」と習った。自分が書いた文章は、私は塾に通っていないから、予えもこのころに「こんな問題では、ほんまの気持ちを書いたらいいかなや」と学習したのだった。そんな私が今、文章の書き方なども塾で指導している。世の中は本当に分からない。しかし、こんな私に今でも文章指導をしてくれる先生がいて、ありがたいことに叱咤激励をいただけているのである。「たくさん読め、たくさん書き、たくさん読め。そして1つ1つの時間をかけて推敲する」先生の文章には、是正にも及ばないが、私にとって文章を書くことは「たかが文章」ではなくて「やっぱり文章」なのである。